

障害者就農 取組事例

平成26年2月

農林水産省
北陸農政局

目次

	取組名	取組主体	県
1	地域の「絆」を活かした障害者就農の推進	NPO法人 UNE	新潟県
2	大学と連携し、発達障害者のための就農を推進	株式会社 金沢ちはらファーム	石川県
3	市民参画型の就労支援	NPO法人 小さな種・こころ	福井県
4	作業が安全な植物工場での障害者就農の推進	株式会社 アクアファーム	福井県
5			
6			

障害者就農支援の促進に向けた取組

No.1

1 概要

取組の経緯

- ・平成23年4月、前身の「ユニバーサル農園芸えちご」を経てNPO法人として認定されるとともに、耕作放棄地や空き家が目立つ一之貝集落に地域活動支援センター「UNEHAUS」（障害者福祉サービス拠点）を運営、障害者と地域の高齢者と協働して水田1.2ha、畑0.8haの他、加工・販売を手掛ける。
- ・平成25年2月、NPO法人として新潟県内初の認定農業者に認定。
- ・1日平均7～8人の障害者の日中支援活動として農作業の訓練を実施。

取組の特徴

- ・UNEHAUSを拠点に障害者と地域住民との交流を図るため、農業（米、野菜、花の栽培）のほか農家レストランを経営、各種イベント等を開催。
- ・平成24年1月に地元の中企業が創設した特例子会社（株）夢ガーデン（将来的には農業への進出を目標にしている）と連携し、障害者による堆肥の製造・販売、切り花の生産、ガーデニング等の作業に取り組んでいる。



写真：「UNEHAUS」に視察に訪れた長岡市のみなさん

（異業種・各省連携等）

（株）夢ガーデン

2 今後の展望と課題

- ・農業ジョブトレーナー等の人材育成、障害者受け入れに対する地域住民の理解の醸成、都市住民の受け入れ体制の整備等を積極的に取り組み、将来的には特例子会社の誘致や、障害者就労支援施設の立上げを目指す。
- ・「農・障(障害者)・高(高齢者)」の連携と若者及び地域資源を活用し、地域の課題解決を進めながら障害者の就労を推進する地域のコーディネーターが必要。

（都道府県地図）



障害者就農支援の促進に向けた取組

No.2

1 概要

取組の経緯

- ・平成10年春、金沢大学大井学教授（当時）が主宰された発達障害研究に関する会合に参加したこどもの保護者が、平成14年に「金沢アスペの会」を設立。平成17年の法人化に伴い「NPO法人 アスペの会石川」に改名した。
- ・（株）金沢ちはらファームは、「NPO法人 アスペの会石川」と発達障害の子どもを持つ親がそれぞれ出資し、平成24年4月に設立した。
- ・金沢市茅原（ちはら）町集落の1.5haの農地を借り受け、障害者と健常者が協働してブルーベリー園と無農薬、有機農法による野菜栽培のほか、野菜等の乾燥品を製造して販売を行っている。

取組の特徴

- ・障害者が無理なく働けるように、健常者とワークシェアリングを行っている。
- ・ブルーベリー園はシステム化され、障害者が作業をしやすい環境となっている。
- ・金沢大学子どもこころ研究センターとの産学連携や石川県央農林総合事務所からは農業技術の提供を受けている。



写真：ブルーベリーの誘引の様子

（異業種・各省連携等）

金沢大学

2 今後の展望と課題

- ・利益を出し職場として成り立たせていくために、長いスパンでの取組が必要。
- ・支えてくれる者がいないと事業として成り立たないので障害者就農を推進するための仕組みづくりを行う。
- ・福祉の面では発達障害の特性把握、農業の面では農業技術それぞれの技能を有する「アグリジョブコーチ」を育成することが課題となっている。

（都道府県地図）



1 概要

取組の経緯

- ・平成17年3月に「NPO法人さばえNPOサポート」がノーマライゼーションの啓発と地域の食文化の継承を掲げてコミュニティ・カフェ「こころ」をオープン。その後、NPOサポート総会で法人格を取得後の独立が承認され、平成23年10月に「NPO法人小さな種・こころ」(構成員40名(障害者サポート20名、地域地産地消グループ20名))として設立の運びとなった。

取組の特徴

- ・企画並びに運営のほとんどはボランティアの協力により行われている。
- ・鯖江市とパートナーシップ協定を締結し、公共施設の空きスペースの使用料を市が1/2補助(café&lunchこころを営業)、耕作放棄地を市が斡旋(こころファーム20aを経営) 高校生を対象とした食育の実践等の共同事業に取り組む。
- ・食品メーカーと協働でこころファームで生産したトマトをジャムにする等の6次産業化(Creation factory こころ)の取組を進めている。

2 今後の展望と課題

- ・6次産業化の中で更に付加価値の高い製品の開発を目指す。
- ・チャレンジド(ハンディキャップを持ちながら社会参画している人達)の雇用場として、地域の人々の幅広い参画が得られるように取り組んでいく。
- ・当面は経営基盤の安定が課題、特に責任の重い仕事をボランティアとして担う役員には、最低限の必要経費を支払う等の対応が急務。



(写真：NPO法人こころ親睦会の様子)

(異業種・各省連携等)

鯖江市市民協働課

(都道府県地図)



障害者就労支援の促進に向けた取組

1 概要

取組の経緯

- ・平成24年8月に、障害者の知識及び能力の向上に必要な訓練を行うため(株)アクアファーム(社員15名)を設立。
- ・同年11月就労継続支援A型事業所として、福井県から認定。
- ・平成25年4月に県事業を活用した植物工場(平屋建て、延べ床面積110m²)が落成。

取組の特徴

- ・太陽光や外気を遮断した屋内で、LED(発光ダイオード)を使いレタス(2種類)を栽培。10代から60代の知的障害者5人、身体障害者2人、精神障害者3人が社員として就労。
- ・植物工場での作業が困難な障害者は、社会福祉法人で施設外就労として働いている。
- ・植物工場での作業は一般の農作業に比べ安全。障害者の作業環境に配慮し、室温は常時23℃に設定し、作業時は全員が酸素濃度計を携帯するなど工夫。



(写真：植物工場内での作業の様子)

(異業種・各省連携等)
社会福祉法人

(都道府県地図)



2 今後の展望と課題

- ・植物工場の強みである無菌に近い状態での生産等を前面に出し販路の拡大を図る。
- ・一層の栽培技術の習得が必要。
- ・植物工場の強み等を活かした商品の差別化と販路の開拓が必要。